

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600285		
法人名	株式会社緑苑		
事業所名	グループホームメープル		
所在地	石狩市緑苑台東3条2丁目170番地2		
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 18 日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0177600285-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・心と心のふれあいの理念に基づいてその人その人のペースに合ったゆったりとした時間が流れている。また、介護される側もする側も同じ目線でだめな人・出来ない人ではなくお互いを支え合い生活している。 ・何事にも臨機応変に対応している。ターミナルケアにも力を合わせて行っている。 ・隣にサービス付高齢者住宅ができ、交流をはかっている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 3 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームでは、利用者の重度化や終末期に向けた対応が穏やかに、また懇切に行われています。24時間対応の医師の適切な対応に加えて、利用者個々の健康管理となる在宅総合診療により暮らしの指針を示しており、家族は勿論、ホームとして方向性を見出す大きな力となっています。看取りの体験もあり、その都度職員は確実なスキルアップに加えて精神的な成長を遂げており、家族との信頼に培われた深い絆も肯けます。次に優れている点は、開設10年来の職員、またそれに近い永い勤続の職員が多く、新人の職員への適切な指導体制が出来ています。管理者と職員が心のふれ合いを大切に利用者 と接する雰囲気 の良さが、新人の職員を魅了するの かもしれません。利用者の暮らしは常に清掃の行き届いたホームで「ゆったりと・・・」したの環境の下で生活しています。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々 の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念に基づく環境づくりを職員が周知徹底し実践している。また、ネームは業務上の安全に配慮し外している。	理念が謳う「心と心のふれあい、ゆったりとした生活環境づくり」は、職員の全てがしっかりと理解しながら、日々のサービスの質の向上に努めている姿が覗えます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者の高齢化により、外出できる方に限りがでてきており、訪問を重視してきている。子供達やボランティアの訪問	町内会の行事などに招かれ、一部の利用者が参加していますが、高齢化による体力の限界のため、従来からの交流は減少傾向にあります。管理者及び職員はあらゆる機会を捉えながら地域との付き合いの継続に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症サポート実践研修や街角介護相談所を設けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・地域の二ヶ月に一度の運営推進会議を利用し、利用者の日常の様子や地域の日頃の様子を話している。	家族、市の担当職員、民生委員及び地域包括支援センター職員などの出席により、ホームの現況や当面する課題などを議題としながら定期的な開催が行われています。	家族には、開催案内がされていますが一部の出席となっています。この運営推進会議がホーム運営に役立つことを伝えながら、より多くの家族出席を頂くよう、また、会議の議事録を整備しながら全ての家族に送付される取り組みが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域ケアマネ包括支援センター、居宅事業所、病院のケアマネとの連携。 ・年に一度、介護保険課の来訪を受け、利用者さんとの交流も有り。また、敷地内にサービス付高齢者賃貸住宅ができ、利用者さんの交流も期待できる。	市の担当者は、度々ホームを訪れて下さり、利用者との食事を交えた交流などを通じて、理解と指導を頂いています。今後は、自己評価並びに外部評価での結果を踏まえ、より良いホームづくりへの取り組みを相談しながら連携を深めようとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修の実践を受け、身体拘束に対する理解を得て取り組んでいる。（夜間はPM7：00～翌AM8：00までは施錠）	外部の研修とは別に、毎月の会議テーマとして話し合いが行われ身体拘束をしないケアの実践に努めています。特に会議の中では職員のストレス解消も取り上げるなど、良き職場環境づくりへの気配りも感じられます。1階・2階のユニット間の交流も盛んで自由な行き来が行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・努めている。利用者と職員がお互いにストレスの溜らない関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修には参加しているが、現在のところ制度を活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・改正があった時は管理者を通して、十分な説明を行っている。また、通信などでも送付している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・来訪時に職員が会話を交わし、話しやすい雰囲気作りをこころがけています。 ・家族会で年一回、親睦を兼ねてホームの庭で焼き肉会を行い意見、要望などを気軽に言って頂ける雰囲気を作っています。	家族とはホームを訪れた際に、また、電話で相談を含めた会話が頻繁に行われています。管理者及び職員は会話などの要点を管理日誌、申し送りに書き止め内容の共有を図っています。年に1回開催される「家族会」では親睦を兼ねた和気藹々のコミュニケーションの場となっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日の申し送りや、月会議等を通じ行っている。また、書面にて全職員で周知している ・各ユニットでも、月1回カンファレンスをしている。	毎月開催されるカンファレンスに加えて月例のフロア会議、更には1・2階合同の全体会議も開催されて、ホーム全体としてのケアの疎通、また、運営に関する意見交換や提案が行われ、理念に添ったしっかりとした方向性の確認に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・就業環境の整備は、介護職にとって必須です。向上心をもって働ける様環境条件の整備に努めたい ・スキルアップや技術向上の研修にも積極的に参加できるよう支援したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・進めている。 ・これからも全員のスキルアップの向上の為、積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡会を通じ、交流ははかっているが、同業者の職員間の交流に関しては、変則性の勤務ということもあり、交流が難しい部分もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・生活状況、日課、医療等、本人や家族と十分に話し合い、相談に応じながら、安心して生活できるよう常に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の不安や、要望を常に傾聴出来る様関係作りに努めるとともに、本人の思いに添えるよう、家族と相談しあえる関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人と家族から日常生活や身体的状況を十分にうかがうと共に、その時に必要な支援を常に行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・一方の立場におかず、本人の出来る事や、残存機能を活かし、互いに支え合う関係を築いている。 ・また、最後まで自分の残存機能が活かせるようなケアに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族関係を大切にし、お互い支援される立場ではなく、互いに支え合える関係を築けるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来訪された際は、一緒に食事をしていただいたり、ゆっくりと談話が楽しめる様配慮している。ただ、高齢化により以前より来訪が減少しつつあるため、繋がりを大事にできるよう、これからも支援していきたい。	このホームでは、訪れた家族や知人に「ご一緒にお食事をなさいませんか」との誘いが行われて、馴染みの関係作りが自然の中に作られています。利用者の好きな寿司を食べるため小樽まで行ったり、桜見物、書道・謡曲の先生方との馴染みの継続を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・1階と2階で積極的な交流をはかっている。 (書道、謡曲、外出、レクリエーション等)		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も連絡や来訪もあり、また、運営推進会議に参加いただく等、関係を大切にしている。 ・入院時のお見舞いも馴染みの利用者と共に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの思いや、心理的状況の把握に努め、困難な場合は、カンファレンス等で話し合いながら、意向に添える支援に努めている。	些細な会話や独り言、また仕草、表情など日常の見守りで利用者の思いや意向の把握に努めています。これら情報は「気付きノート」に記載し共有が図られ、ゆとりある暮らしの継続に役立てています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人の趣味嗜好や、馴染みの暮らし方を把握し、生活のなかに取り入れて、その人らしい生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日、心身の状況の把握に努め、観察すると共に、その時の状態や残存機能を活かした生活を送れるよう努めている。 ・ユニットごとのカンファレンス資料も全職員で共有し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・常にカンファレンスや月会議等を通して介護計画の見直し、現状に即したより良い生活ができるよう計画している。また、家族に日常生活の状況を話しながら、意見をうかがってケアに活かしている。	昼夜の様子が区別して記載される介護日誌に加えて「気付きノート」の内容が、ケアプランの遂行を的確に反映されたものとなっており、プランの見直し、また、家族への説明にも役立てています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・月会議、カンファレンス等で、情報を共有している。また、「気づきノート」や、必要に応じて別紙記録をし、毎日の変化を職員間で共有して実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・医療連携、通院、送迎、外出、書道等、その時に応じた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの活用（クリスマス会、お祭り、ピアノ演奏、尺八、書道、少年野球部の子供たちとのふれあい）		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月2回の在宅総合診療をはじめ、かかりつけ医の往診や、外部の医療機関にかかるなど、希望に応じて対応している。また、状態に応じて適切な治療が受けられるよう、他の医療機関とも連携を築いている。	従来のかかりつけ医への継続受診が図られ往診にも来ていただいています。また毎月1回、全ての利用者を対象とした「在宅総合診療」は、高齢化による身体機能の低下が著しい利用者にとって適切な相談や処置が可能となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日の申し送りにて、特変のあった利用者の報告をすると共に、必要に応じて指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・家族と相談のうえ、家族と施設の意図を伝えると共に、早期退院につながるよう情報交換をおこなったり、なるべく頻繁なお見舞いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・24時間対応頂ける医師の協力を得て段階をふみながら話し合いをしていき、どのような終末期を迎える事を望まれるか、また、事業所でできることを十分に話し合えるように取り組んでいる。 ・職員のターミナルケアの研修	職員は、これまで数例の看取りを体験していることからターミナルケアへのスキルはとても高いものを感じられます。医師や家族を交えた話し合い、日常の利用者との会話も踏まえ終末期への支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的な訓練を行って全職員が周知できるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を定期的に行っている。地域の協力を受けられるよう、運営推進会議で働きかけている。	地域の支援、協力体制の確立、隣接の介護つき高齢者住宅との災害時における連携など、日頃から災害への関心は高まっています。災害時の対応として井戸水のボーリングや備蓄品の充実など、避難訓練の実施と相まって対応が進められています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々の個性や趣味、生活歴を理解すると共に、言動や表情に注意しながら対応している。	利用者がこれまで刻んできた生活を少しでも多く理解しながら、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保に留意した言葉掛けとともに、タクトィールケアによる心と心のふれ合いを大切にした支援が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・加齢に伴い、自己決定が難しくなっているが、思いや希望をくみ取り、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・状況を見極め、個々のペースに即した「ゆったりとした生活」を過ごせるよう、常にこころがけている。また、レクの充実をはかれるよう、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人の趣味趣向や、好みに合わせ自分らしい身だしなみができるよう配慮している。 ・本人に洋服を選んでもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・一緒に食事をし、洗物や、食器拭き、米とぎ等を積極的にお手伝いいただいている。また、季節の食材を取り入れるようにしている。	今年2月から業者による献立と食材の調達が行われ、ホームでは温めと盛り付けをしています。これまでホームで作られた献立を業者に取り込んでもらい献立作りをしています。彩の良い食事は利用者の笑顔と食欲の増進に貢献しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事水分量は温度板を用い把握している。栄養については献立表を使い、一日1400カロリーを目安にしています。水分補給が困難な方はラコール・ジュース等で摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを行っている。自歯の利用者さんは、近隣の歯科を定期受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・昼夜トイレ誘導を行っている。排泄チェック表を用い個人の排泄パターンを把握している。日中は布パンツを使用し、排泄の自立支援、夜間はポータブルトイレも試している。	利用者の排泄パターンを把握し排泄チェック表を利用して、プライバシーに配慮しながら出来るだけトイレでの自立排泄が可能な支援が行われて効果を挙げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事の工夫、繊維の多い野菜を用いたり、腹部マッサージをしている。（腹筋運動、歩行運動など）		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・全ての希望には添えないが支援している。（週三回月、水、金行っている）	週3回の入浴日を設定しながらの入浴支援が行われています。体調など入浴できない場合も振り替えて入浴してもらい、シャワー浴も含めて清潔な暮らしに役立てています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の生活習慣を尊重している。 ・夜間の室温に配慮している。環境・着衣に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・在宅総合診療の先生と共に、症状の変化の際は迅速に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・入浴日以外と土日は気分転換の支援（近くのスーパーマーケット、コンビニ、図書館、喫茶店、散歩、外食、ドライブの充実をはかる）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・希望に添ってなるべく多く出かけるよう支援している。時には、家族の協力もあり、思い切って遠くに出かける事もある。（花見、大通り公園、海、落ち葉狩り、小樽、札幌地下歩道散策など）	夏季には近所の散歩に加えて、ホーム車両によるドライブで、花見、札幌の大通公園や地下遊歩道での散策など外気浴を兼ねた外出支援が行われています。また、家族の協力により独自の外出をされる利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・近くのスーパー、コンビニ等へ出かけている。見守りにて支払している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・一部の利用者ではあるが、自由に電話、手紙のやりとりをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・木のぬくもりを大切にし、中央が居間で孤独感を感じさせないように配慮している。カーテンの開閉・蛍光灯の交換をしている。居室にこもりがちな場合は声掛けしている。	食堂の食卓は円形のテーブルで利用者同士が顔の見える配慮により、笑顔で楽しい食事が行われています。食堂に隣接されたサンルームの増設により、明るく開放感のある空間ができ上がっています。居間、食堂、廊下など掃除が行き届いており、豊富に使用した木材による温かさがホーム全体に潤いをもたらしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者の思いの場所で過ごせるよう努めている。 ・気の合った利用者さん同士の談話なども各居室から聞こえている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた物を持ってきている。また、毎日各居室の掃除、整理整頓に努めている。 ・お仏壇には毎日ご飯、お水をあげている。	利用者個々の違いこそあれ、それぞれの慣れ親しんだ家具や調度品が整然と置かれ、住み心地の良い空間となっています。収納スペースへの整理もされて清掃も行き届いています。 ベット近くに置かれた裁縫テーブルが利用者の趣味の継続に役立つものと覗い知ることができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリー等、自立した生活が送れるよう手すりや、階段には滑り止めを使うなど工夫をしている。		